

かすがのやしろう  
春日社は<sup>おほはらの</sup>大原野林中にあり。

二条<sup>にでう</sup>のきさきのまだ東宮のみやす所と聞えける時に、おほはら野にまふでたまひける日よめる、

古今 おほはらや<sup>を</sup>小塩<sup>しほ</sup>の山もけふこそは神代のことも思ひいづらめ ならひらの朝臣

拾遺 大原の神もしるらん我が恋はけふ氏人のこゝろやらなん 一条 撰政

続後拾 おほはらやをしほの山のほとゝぎす我に神代の事かたらなん 左大臣

当社の神は<sup>たけみかつちのみこと</sup>武甕槌命、<sup>いはひぬしの</sup>斎主命、<sup>あまつこやねの</sup>天津児屋命、<sup>ひめおほかみ</sup>姫大神の四座にして、<sup>にんみやうてい</sup>往昔仁明帝嘉祥三年に、<sup>さだいじんふゆつぐこう</sup>左大臣冬嗣公これを沙

汰し給ひ、<sup>なんとみかさ</sup>南都三笠山より勸請し、平安城守護神と定め給ふ。「五条后順<sup>じゆん</sup>子始て詣給ひしより、<sup>とうし</sup>藤氏の後宮行啓ありし

なり。<sup>なら</sup>奈良は都より道のほど遠ければ、大原野にうつし、后妃夫人の参詣をたやすくあらんとなり。例祭は二月上の卯

日、仁寿元年より始る。南都薪の神事に准じて能あり、しかし毎歳にはあらず」

源氏行幸の巻に そのしはすに<sup>おほはらの</sup>大原野のみゆきとて世にのこる人なく見さわぐ、<sup>しゆじやく</sup>朱雀より五条の大路を西さまにかつ

ら川のもとまで物見車ひまなし、かくて野におはしましつきて、六条院より御みき御くだものなど奉らせ給ふとな

ん。(下略)

<sup>こひさはのいけ</sup>鯉沢池〔社の南にあり、中島に<sup>りうじん</sup>龍神社あり〕<sup>せがみのしみづ</sup>瀬和井清水〔池の傍にあり〕

夫 木 夜を寒みせが井の水は氷ども庭火は春のこゝ地こそすれ 大江 匡房